

令和5年 お茶づくり技術情報 (No.8)

2023年6月5日
佐賀県茶業技術協会
佐賀県茶業試験場

1. 生育と気象

1) 二番茶の萌芽 (茶業試験場内作況調査ほ場)

表1 二番茶萌芽期

本年	前年	前5か年平均
5月21日	5月23日	5月23日

注) 品種: やぶきた 樹齢: 22年生

- (1) 茶業試験場内の作況調査園 (定点調査園、品種: やぶきた) において、5月21日に二番茶の萌芽期をむかえ、前年および前5か年平均 (5月23日) より2日早かった (表1)。
- (2) 一番茶の摘採 (4月26日) から二番茶萌芽期までの所要日数は25日間で前年 (22日間) より長く、前5か年平均 (25日間) と同等であった。

2) これまでの気象

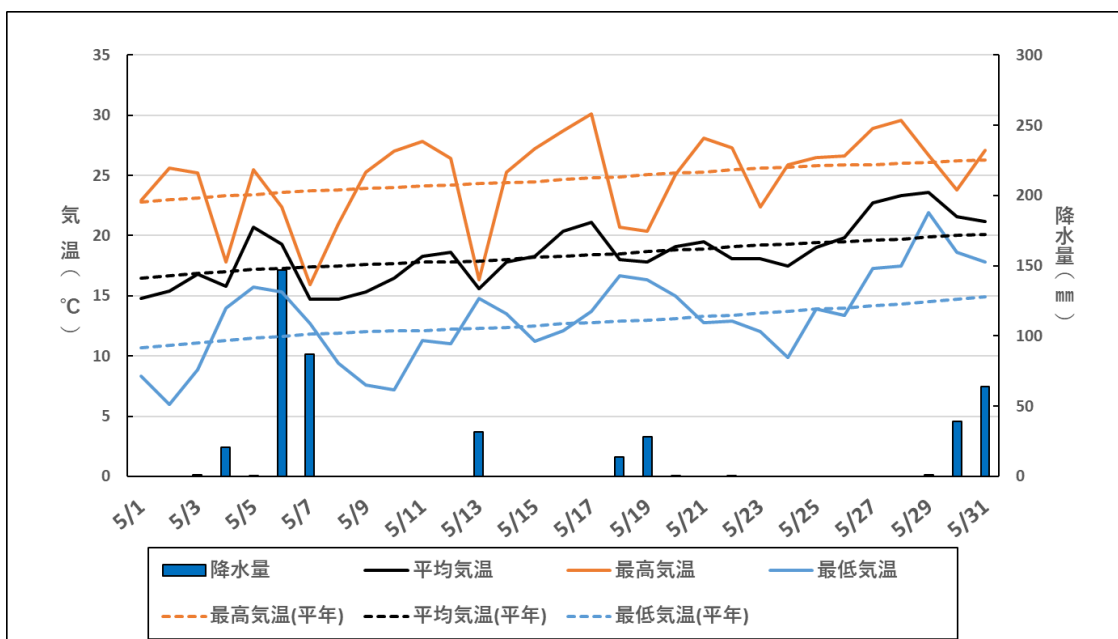


図1 一番茶摘採後の気象状況 (5月1日~5月31日)

- (1) 5月の平均気温は、上旬~中旬は平年並、下旬は平年より高かった。
- (2) 降水量は、5月4日~7日および5月13日,18日,19日,29日~31日に降水があり、5月期間降水量は435.5 mm (平年比210%) と多かった。

3) 今後の気象の見通し

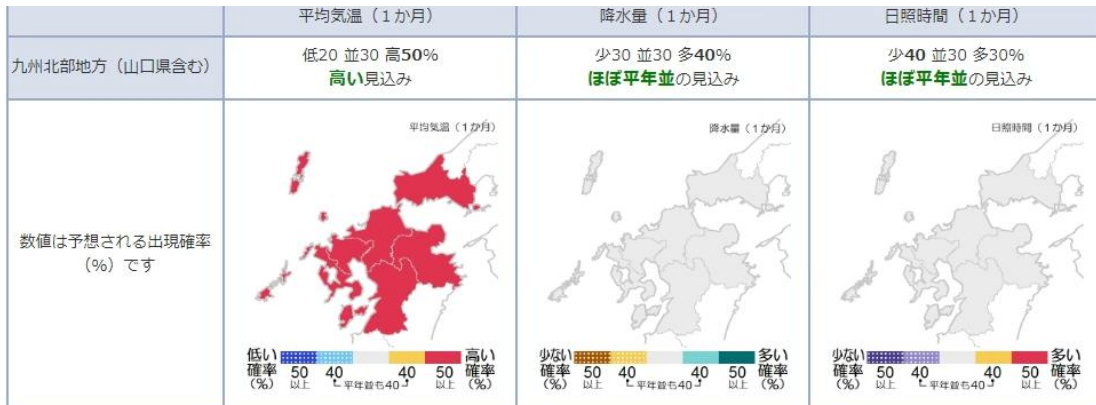
■ 2週間気温予報 (気象庁、2023年6月1日5:00発表)



今後2週間の最高気温は、1週目は平年より低いまたは並、2週目は平年並となる予報である。

(2) 今後2週間の最低気温は、1週目の2日、3日は平年より高いが4日、5日は平年より低くなり、2週目は平年並となる予報である。

■ 1か月予報 (気象庁、2023年5月25日発表) (九州北部地方 5/27~6/26)



(1) 気温は、暖かい空気が流れ込みやすいため高く、特に期間のはじめは高くなる見込み。

(2) 降水量と日照時間時間は、ほぼ平年並の見込み。

2. 今後の管理

1) 二番茶後の整せん枝

(1) 更新 (浅刈り・深刈り)

樹勢の維持向上や樹高の調節を目的として更新を行う場合、樹勢の強い茶園以外は、葉層を残す「浅刈り更新」を基本とする。

■ 浅刈り

- ① 前年の秋整枝面より 3~4 cm 程度深く、古葉を 1~2 葉残す程度に剪枝する。
- ② 平坦部で 7 月上旬頃までに完了する。
- ③ 病害の発生部を剪除する耕種的防除法としても効果的である。

■ 深刈り (樹勢が強い茶園)

- ① 樹高が高くなり、摘採を含む枝条管理作業が困難となった場合に行う。
- ② 分枝が密集している下位で古葉が残らない程度 (二番茶摘採面から 10~20cm 程度)

に剪枝する。

- ③ 強めの更新となるため、平坦部でも6月15日頃までに行う。
- ④ 一般的に翌年の収量は更新前の8割程度となるが、2年目以降は回復する場合が多い。

(2) 中切り後の整枝（一番茶後に中切りを行った茶園）

- ① 順調に生育している場合、伸長した再生芽を整枝する。
- ② 中切り後60～70日（7月中下旬頃）、再生芽が15cm程度（5～6葉期）伸びて整枝位置が硬化した時期がよい。
- ③ 中切り面から2～3節（5cm程度）上げた位置で行う。
- ④ 芽伸びが悪い場合は徒長枝をはねる程度で、無理に深い整枝はしない。

(3) 整せん枝時の注意点

- ① 夏季の干ばつや病害虫の被害を受けやすいため、かん水施設等がある場合は、かん水を行い、再生芽の防除を徹底する。
- ② せん枝直後に30℃以上の高温にあつと再生芽の生育が遅延するため、なるべく高温日を避けて行う。

2) 土壌・肥料

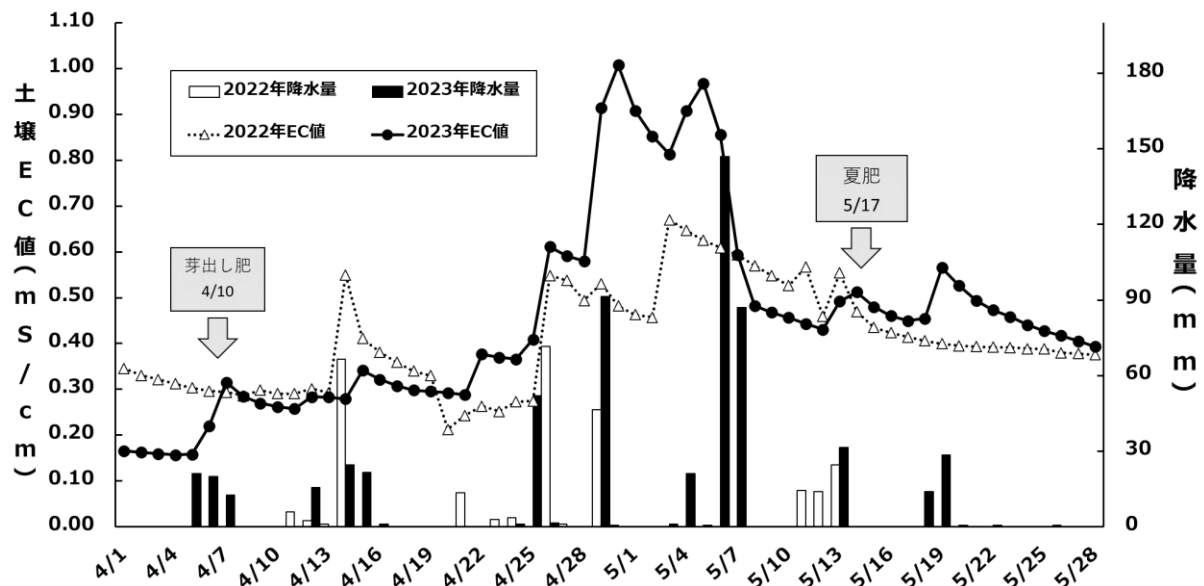


図2 茶試作況調査園における土壌 EC 値の推移

- (1) 土壌 EC 値は、4月下旬～5月上旬のまとまった降雨により大きく上昇した。5月下旬は降水が少なく、低下傾向であった。